

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	4 月 10 日 (木)	熊谷 大河

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～自然～ 公園にあるものを調べよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃の戸外活動では、草花や木の実を見つけて集めて遊ぶ姿がある。また、室内活動では、図鑑で調べたり、友達と見せ合ったりする姿がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・公園にはどのようなものがあるか話し合う。	【環境設定】 ・公園や園庭など、安全に探索できる場所を選定する。 ・公園内のルールを確認する。 ・事前に探索ルートを決め、安全面に配慮する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
	・公園へ行って話し合ったものがあるか見に行く。	
	・どこの公園に行くか、何を持っていくか話し合う。	
	・公園にもっていく図鑑やスマートフォンやデジタルカメラの使い方も話し合う。	
10:10～10:30	・公園で興味のある生き物や、植物を探す。	【活動使用教材】 ・ポケット図鑑 ・ペットボトル（枯れ防止） ・収集したものを入れる袋 ・かばん（図鑑を入れるため） ・スマートフォンやデジタルカメラ ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
	・見つけたものを図鑑で調べたり、写真に撮って記録する。	
	・それぞれ好きなものを探し、調べながら、わかったこと、気づいたことを伝え、会話しながら活動する。	
	・持ち帰ることができるものについては、どのように持ち帰るか考える。	
10:30～10:40	・公園で見つけたこと、感じたことを話し合う。	【事前準備】 ・植物が多くある公園や場所を選定する。 ・子どもたちが日頃からポケット図鑑に触れる機会を作る。 ・スマートフォンやデジタルカメラ残量を確認しておく。 ・探究活動に使用する用具（ポケット図鑑、かばんなど）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・絵本の作り方を調べておく。（綴じ方） ・図鑑見本に載せる植物や写真を用意しておく。 ・図鑑用の冊子見本を作成しておく。（3～4ページ） ・図鑑用の台紙、冊子にするための製本テープ ・セロテープやのり ・筆記用具（鉛筆、色鉛筆、カラーペンなど）
	・友達の話聞いてどう思ったかを伝える。	
	・今日の調べたり、記録をとった植物などをどうするか話し合う。	
	・今後、図鑑や地図を作っていこうと提案する。	
	・次回は公園でどのようなものをもっと探したいか、調べたいか考えてみる。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、公園にはどのようなものがあるかを話し合い、「花」「虫」「きれいな石」など、様々な自然への興味・関心がある様子である。 ・公園では、それぞれが気になる草花や虫を見つけ、保育者や友だちに共有していた。・帰園した後に桜やアリなどの虫を図鑑で調べていた。	【子どもの姿・声】 ・「この花、見たことあるけど名前わからない。」 ・「この図鑑に似てるのが載ってたよ。」 ・「友だちの見つけたものもおもしろい。ぼくも探したい！」 ・「調べたら『カラスノエンドウ』だった！」と、発見を友達に共有する姿が見られた。 ・持ち帰りが難しい植物については、「じゃあ写真にして図鑑に貼ろう。」と提案する子もいた。 【保育者との関わり】 ・「どんなところにその花があったの？」「どうして気になったの？」と問いかけを通して思考を促した。 ・カメラ等使用前には「何を撮る？」「この写真をどうしたい？」と考えを整理できるように声を掛けた。 ・図鑑の調べ方が分からない子には、一緒にキーワードを探しながら調べる経験を共有した。 ・活動中のつぶやきやつながりを受け止め、次への探究へとつながるよう言葉を返した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは自然物に対して「なんだろう？」などの疑問や興味がある様子から活動の導入に繋がった。 ・桜の花びらの形や大きさが気になる様子もあった。 ・活動の中で、保育者が誘導するのではなく、子どもが自分の視点で捉えて発信していた。また、虫や花だけでなくブランコや遊具がある公園だからこそ、公園の大きさに着目する子がいるなど、環境の違いに気づく子もいた。	公園に出かけ、葉っぱや石、虫など身近な自然物を興味深そうに観察する姿が見られ友達と共有することで、さらに探求心が広がっていく様子が印象的であった。 日本の四季を知る事でより季節にも目を向け関心が広がる題材で楽しんで興味関心が湧きこどもの知る体験を学び、自然に対してたくさんの「なんで？」「どうして？」を感じており、その気づきは科学的な学びの土台に繋がっていった。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	7 月 3 日 (木)	熊谷大河

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～水～ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水を触ったときの冷たさや流れる様子、こぼれたり消えたりする不思議さに日常的に興味をもっている。「なんでぬれるの?」「なんで流れるの?」と、感覚を通じた体験から水に関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・水とは何かを問いかける。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10～10:30	・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 ・水を水槽やコップに入れて観察してみる。 ・さまざまな形の容器に水を入れて、形の変化を探究してみる。 ・水の流れを探究してみる。	
10:30～10:40	・温度で水がどのように変化するかを調べてみる。 ・探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 ・水の性質について確認する。	
		【活動使用教材】 ・水 ・絵の具(水色) ・透明のプラスチックコップ ・さまざまな形の容器(皿、コップ、袋など) ・スロープ ・電気ポット ・氷 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・牛乳パックやペットボトルなどで傾斜のあるコース(スロープ)を用意しておく。子どもたちと作成しても良い。 ※切り口でけがをしないよう配慮する。 ・氷を作っておく。子どもたちと一緒に作っても良い。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、水はどのようなものか考え、「手を洗うときに使う」「雨」「つめたい」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。 ・水について、色、形、においや流れ、三態と状態変化など体験を通じて探究を深めた。 ・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。	【子どもの姿・声】 ・「この花、見たことあるけど名前わからない。」 ・「水色って水の色とは違う。なんで絵具はこの色なんだろう？」 ・「水って形ない！」 ・何度も水を流しては道を変え、「どうしたらうまく流れるか」を試行錯誤していた。 ・発見を友達に共有する姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「Cくんはどう思った？」「Bちゃんはどうだった？」と対話をつなげた。 ・こぼしたり、うまくできなかった場面では「ためしてみて、いいね！」と失敗も前向きに受け止め、再挑戦を促した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、普段当たり前に触れている水にも強い関心を持っていることに改めて気づいた。水を実際に間近で観察していると、透明なことを話す子がいた。その中で「水って透明なのに何で絵を描くときに水色で書くの？」と質問する子がいるなど、何気ないことにも気を配り関心をもっていると感じた。	子どもたちが、日常の中で当たり前に触れている「水」に対しても、改めて強い関心を寄せている姿が見られました。実際に水を間近で観察する活動では、その透明さに気づいて言葉にする子がいたり、「水は透明なのに、どうして絵を描くときは水色で描くのだろう」と問いかける子がいたり、一つひとつの現象を丁寧に捉えようとする姿勢が印象的でした。こうした素朴な疑問や気づきは、子どもたちが日常の何気ない事柄にも心向け、主体的に考えようとする力が育っている証です。身近な自然に対する興味や探究心が、今後の学びの広がりにつながっていくことを期待しています。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	10 月 3 日 (金)	熊谷大河

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。『この花はあか！』『先生の服はみどりだね』と色を言葉にしたり、絵を描くときに好きな色を選んだりしている。また、食事の中でも『にんじんはオレンジだね』『ブロッコリーはみどりだ』と気づいたり、活動の中で色の違いや混ざり方に関心をもつ姿も見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	・「いろおに」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなのかを考える。	【環境設定】 ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真 (赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本 【事前準備】 ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙 →16等分に切り分ける。(人数分またはグループで1セット) ・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。 (赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・白い画用紙と着色が期待できる素材を複数用意しておく。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。
10:15～10:30	・白い画用紙を選んだ色と同じ色にしてみようと問いかける。 ・素材から何色になるのかを想像して白画用紙にこすりつける。	
10:30～10:45	・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・学んだ色の働きや面白さについて発表し合う。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・「今日学んだ色のことを、これからどんな場面で思い出せるかな?」と問いかけ、生活と結びつける。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
色の違いや成り立ちについて関心をもち、積極的に考えながら活動を進めた。「この青は冷たそう！」「黄色は元気になる色！」と色の印象を話し合い、色の持つ効果を実感していた。また、実際に12色の中から好きな色を選び、「この色が好きな理由」を考えることで、色への理解を深めていた。	【子どもの姿・声】 ・「この色は明るくて楽しい感じ！」「紫って、どんなものからできているの？」「赤と青を混ぜたら、何色になるのかな？」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「この色を見てどんな気持ちになる？」「どんな場面でこの色が使われているかな？」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また、異なる文化や歴史における色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心をもち、「もっといろいろな色を見てみたい！」と興味を深めていた。 ・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・色彩心理の話に興味を示し、「この色はどんな気持ちの時にいいの？」と質問する姿が見られた。	子どもたちは色の違いや組み合わせに強い関心を示し、「もっといろいろな色を見てみたい」という意欲的な姿が見られました。自分の好きな色を選び、その理由を考える過程では、色への理解が深まるとともに、自分の思いを言葉で表現する力も育まれていました。また、色彩心理の話にも興味を示し、「この色はどんな気持ちの時にいいの？」と問いかける姿が見られるなど、色と心のつながりにまで関心が広がっていることが印象的でした。色を通して自分の気持ちや他者の思いに目を向ける経験は、感性の育ちにもつながる大切な学びだと感じています。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	1 月 30 日 (金)	熊谷大河

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってなあに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃の生活の中で、お家の方との買い物や、お小遣い、キャッシュレス決済の場面などに触れる機会があり、「お金」という存在を意識し始めている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:20	・買い物をする時に何が必要か問いかけ、意見をまとめる。 ・「お金以外のものを使って買ったことはあるか」など、幅広い意見を募る。 ・なぜ、何のために、お金があるのか考える。 ・「お金がなかったらどうなるか」など、深く問いかける。 ・お店屋さんとお客に分かれてお店屋さんごっこをする。客には一人三百円渡して大切な使い方を話す。 - 想定以上にお金が無くなりやすいことに気付く。 ・やってみて分かったこと、感じたこと、うまくいかなかった点などを発表し、意見をまとめる。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・模擬商品(保育室内の玩具など) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・手に持って交換できる模擬商品を用意しておく。玩具以外にも、イラストや写真(本物と見立てる)などの活用も可。(玩具、食べ物、服、家、車、お店屋さん、水、砂、石など) ・「物々交換しやすいもの」と「物々交換しにくいもの」を用意しておく。 ※物々交換しやすい商品例： 玩具、(手で持てる)食べ物、服 ※物々交換しにくい商品例： 家・車(運べない)、電気(持てない)

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
お金は何に普段使用しているかを話すと、「玩具を買うため」とのことだった。例えばご飯を食べるための食材やフライパンを温めるためにもお金がかかる事に驚いていた。客役、店員役に分かれて客役は一人三百円で買い物をするので規定金額にすぐに達した事から暇を持て余していた。買い物のためのお金の使い方などを話した後にはどのようにしてお金が生み出されるかを話すと「保護者のおかげである」ことを話していたことから活動の終結点として身の回りへの感謝に繋がる展開となった。	【子どもの姿・声】 ・模擬商品を手にすると「本物だとしたら、どれと交換したいかな？」という問いかけに対し、真剣に考えを巡らせる様子が見られた。 ・物々交換の際には、「車1台と食べ物物を交換するとしたら、何個がいいかな？」と、物の価値を想像しながら交渉する姿が見られた。 ・活動後の振り返りでは、「〇〇(商品)は重いから運びにくい」「欲しい物を持っている人が交換してくれないから買えなかった」など、物々交換の具体的な不便さを言葉にしていた。 ・「誰も欲しがらない物を持っている人は、どうなるの？」という問いに、「かわいそう」や「交換を諦めてしまう」といった他者への共感や限界を感じる声が上がっていた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちの「お買い物」や「お小遣い」に関する過去の経験を丁寧に聞き出し、探究の出発点とした。 ・「どうして交換したくなかったのかな？」といった問いで、子どもたちの考えや思いを深掘りした。 ・どんな意見でもまずは受け止め、子どもの思いや考え、気づきを承認する姿勢を大切にしました。また、予想と結果が違っても「正解でないから駄目だ」と認識しないように配慮し、正解に誘導しないよう留意した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
今回の保育における「お金」に関する探究活動を通して、子どもたちがお金の役割や価値を、自分たちの生活と結び付けながら理解し始めている姿が印象的であった。普段お金を何に使っているかを尋ねると、「玩具を買うため」という答えが多く聞かれ、子どもたちにとってお金は「欲しいものを手に入れるためのもの」という認識が強いことが分かった。一方で、ご飯を食べるための食材を買うことや、フライパンを温めるためにもお金がかかるという話をすると、驚いた表情を見せており、日常生活の中で当たり前のように享受していることとお金とのつながりに、これまで意識が向いていなかったことがうかがえた。客役と店員役に分かれて一人三百円で買い物をする活動では、子どもたちがすぐに規定金額に達してしまい、暇を持て余す姿も見られた。この場面から、限られた金額の中で何を選び、何を我慢するのかという視点がまだ十分に育っていないことを感じたと同時に、金額設定や商品内容を工夫することで、より深い学びにつなげられる余地があると感じた。しかし、その後にお金の使い方について皆で話し合うことで、「全部欲しいけれど買えない」「必要なものを先に買う」という気づきが少しずつ言葉として表れてきた点は、大きな成果であった。お金はどのようにして生み出されるのかという問いかけに対して、「保護者のおかげである」という声は自然と上がったことは、この活動の大きな終結点であったと感じる。自分たちが使っているお金の背景には、保護者が働いてくれていることがあるという理解につながり、身の回りの生活や人への感謝へと話題が広がっていった。この流れは、お金について学ぶことが単なる知識の獲得にとどまらず、人とのつながりや支え合いに気付く機会となることを示している。	お金はどのようにして生み出されるのかという問いかけに対して、「保護者のおかげである」という声は自然と上がったことは、この活動の大きな終結点であったと感じる。自分たちが使っているお金の背景には、保護者が働いてくれていることがあるという理解につながり、身の回りの生活や人への感謝へと話題が広がっていった。この流れは、お金について学ぶことが単なる知識の獲得にとどまらず、人とのつながりや支え合いに気付く機会となることを示している。今回の活動を振り返り、子どもたちはお金を通して生活の仕組みを知り、視野を広げることができた一方で、保育者としては活動の設定や問いかけ次第で、さらに探究を深められると感じた。今後は、子どもたちの実体験により近い場面を取り入れながら、お金の使い方や価値について、楽しみつつ考えられる活動へと発展させていきたい。そして、お金の学びが「感謝」や「大切にすること」へと自然につながるよう、丁寧に関わっていくことの大切さを改めて実感した。